

特集

言葉で未来を 切り開け。

令和三年度版 中学校『国語』

来年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、
教科書も新しく生まれ変わります。

この特集では、新学習指導要領が目ざすものを
新版教科書でどのように具現化しているか、
特に「読むこと」の領域に焦点を当てて紹介します。

言葉に出会うために

これまで、
どんな言葉に出会ってきただろう。
そして、これから
どんな言葉に出会っていくだろう。
教科書を開けば
たくさん言葉が
あなたを待っている。

国語を学ぶのは
あなた自身を作り上げるため。

言葉は
あなたと世界をつなぎ
あなた自身の世界を作り上げる。
手に入れた言葉の数だけ
世界がはつきり見えてくる。
身につけた言葉の数だけ
自分が大きくなっていく。

さあ、友達を増やすように
言葉を増やしていこう。
言葉の数だけ、あなたは世界に近づく。
言葉の数だけ、あなたの世界は大きくなる。



言葉による見方・考え方

上に示したのは、一年冒頭の「言葉に出会う
ために」(一年P12～13)です。

来年度四月から完全実施される新しい学習指導
要領で、国語科の目標は「言葉による見方・考
え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確
に理解し適切に表現する資質・能力を(中略)
育成することを目指す」としています。

光村図書は「言葉に出会うために」にもうたっ
ているように、従来からこの考え方の追究を続

け、教科書にも反映してきました。今回の学習
指導要領改訂を踏まえ、それをいっそう深化さ
せた教科書を編集しました。

言葉で未来を切り開け

現在の生徒たちが社会人となる二〇三〇年、
社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難に
なっていくと予想されています。社会の変化に
いかに対処していくかという受け身の観点に立
つのであれば、難しい時代になります。

「言葉で未来を切り開け」。今回の新版教科書
のテーマは、そうした背景を受けて設定しまし
た。生徒一人一人が未来の創り手として、決まっ
た答えのない課題に積極的に取り組み、他者と
協働して試行錯誤しながら新しい価値を創造で
きるようになる、そんな教科書を目指しています。

言葉と心を育む教科書を

そのために特に大切なのは、優れた作品に数
多く出会い、豊かな感性と論理的思考力、語彙
力を育むことです。

次ページからは、特に「読むこと」教材で、
それをどのように実現しているのかをご紹介します。

「読むこと」教材一覧

文学——感性を磨く言葉と出会う

1年

2年

3年

新 朝のりレー 詩 谷川俊太郎 言葉に出会うために 野原はうたう 詩 工藤直子 学びをひらく 新 シンシユン 物語 西加奈子 言葉に立ち止まる 詩の世界 詩解説 (新 序文・谷川俊太郎) 新 一枚の絵 木坂涼 新 朝 吉田加南子 新 未確認飛行物体 入沢康夫 心の動き 大人になれなかった弟たちに…… 物語 米倉齊加年 星の花が降るころに 小説 安東みきえ 音読を楽しもう 新 大阿蘇 詩 三好達治 自分を見つめる 少年の日の思い出 小説 ヘルマン・ヘッセ／高橋健二 訳 新 随筆二編 随筆 (空／えんぼう) 工藤直子 新 さくらのなびら 詩 まど・みちお 読書教材 (本の中の中学生・考える人になろう) 新 あと少し、もう少し 瀬尾まいこ 新 西の魔女が死んだ 梨木香歩 新 君たちはどう生きるか 吉野源三郎	見えないだけ 詩 牟礼慶子 広がる学びへ アイスプラネット 小説 椎名誠 言葉と向き合う 新 短歌に親しむ 短歌・解説 栗木京子 短歌を味わう (六首) 言葉の力 随筆 大岡 信 人間のきずな 盆土座 小説 三浦哲郎 字のない葉書 随筆 向田邦子 音読を楽しもう 新 月夜の浜辺 詩 中原中也 表現を見つめる 走れメロス 小説 太宰治 新 木 詩 田村隆一	新 世界はうつくしいと 詩 長田 弘 深まる学びへ 握手 小説 井上ひさし 言葉とともに 俳句の可能性 俳句・解説 宇多喜代子 俳句を味わう (九句) 状況の中で 挨拶——原爆の写真によせて 詩 石垣りん 故郷 小説 魯迅／竹内 好訳 音読を楽しもう 初恋 詩 島崎藤村 未来へ向かって 温かいスープ 随筆 今道友信 わたしを束ねないで 詩 新川和江	新 羊と鋼の森 宮下奈都 読書教材 (私の一冊を探しにいこう) 資料編 高瀬舟 森鷗外 森鷗外の生涯	資料編 坊っちゃん 夏目漱石 夏目漱石の生涯
--	--	--	---	---------------------------

近代文学の
系列を新設

説明文——論理的思考力が身につく

1年

2年

3年

新しい視点で ダイコンは大きな根? 説明 稲垣栄洋 ちよっと立ち止まって説明 桑原茂夫 言葉に立ち止まる 新 比喩で広がる言葉の世界 説明 森山卓郎 筋道を立てて 新 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 記録 鈴木俊貴 価値を見いだす 新 「不便」の価値を見つめ直す 意見 川上浩司	多様な視点から 新 クマゼミ増加の原因を探る 報告 沼田英治 情報社会を生きる 新 「自分で考える時間」をもとう 池上彰 論理を捉えて モアイは語る——地球の未来 論説 安田喜憲 価値を語る 君は「最後の晩餐」を知っているか 評論 布施英利 新 「最後の晩餐」の新しいさ 解説 藤原えりみ	視野を広げて 作られた「物語」を超えて 論説 山極寿一 情報社会を生きる 新 実用的な文章を読もう—— 報道文を比較して読もう 比較 新 人間の未来 論説 羽生善治 新 人工知能と創造性 論説 松原仁 比較 自らの考えを 新 人工知能との未来 論説 羽生善治 新 人間と人工知能と創造性 論説 松原仁 比較 価値を生み出す 誰かの代わりに 論説 鷲田清一	新 日本に野生のゾウやサイがいた頃—— 富田幸光 (研究者) 川端裕人 (取材) 新 クモの糸でバイオリン 大崎茂芳 読書教材 (本の中学生・考える人になろう) 読書教材 (本の中の中学生・考える人になろう) 小林良介 新 の新しい制約 佐藤雅彦 資料編 幻の魚は生きていた 中坊徹次	生物が記録する科学 ——バイオロギングの可能性 佐藤克文 資料編 二つの悲しみ 杉山龍丸 アラスカとの出会い 星野道夫
---	--	--	--	---

価値の創造
筆者の考えを基に
対象を評価し、新たな
価値を見いだす系列

論理の吟味
筆者の論理展開を
客観的・批判的に
読み解く系列

視野を広げる
文章の内容や
論理の展開を
正確に捉える系列

図表
文章と図表を結び付ける

実社会
実社会で役立つ力をつける

比較
比較して読む・批判的に読む



新しい「読むこと」教材の提案

多様な考え方を育み、言葉の力で未来を開く

さまざまな情報や価値観にあふれた現代。人間関係の悩みや未来への不安を抱えている生徒もいるでしょう。新版では、そうした生徒たちに、言葉の力で新たな未来を切り開いていくきっかけを与えてくれる作品を数多く掲載しました。さらに、主な作品の作者・筆者の作品に込めた思いや中学生へのメッセージを動画で収録し、主体的な読みにつながる工夫をしています。ここでは、新版で新たに書き下ろしをお願いした三人の方のメッセージを掲載しました。

作者インタビュー

一年「シンシユン」

——「僕の好きなものをシンタが嫌いで、僕は傷つかないよ。あ、ううん、傷つくかもしれないけど、でも、じゃあ、だからこそ話そうよ。どうして好きなのか、どうして嫌いなのか。」——

体つきも考え方もよく似ているシンタとシンタ。とても仲のよい二人だったが、ある小説の印象を巡って、心の距離が離れていく……。



小説家
西加奈子



にし・かなこ
イラン・テヘラン生まれ。『サラバ!』で第152回直木三十五賞を受賞。著書に『さくら』『通天閣』『ふくわらい』『おまじない』などがある。

——言葉と仲よくなるには

子どもたちは、言葉とはもう友達になっているんですよ。十年ぐらいしゃべってるんだから、すでに誰よりも友達だと思います。

もっと仲よくなるためには、思っていることを全部誰かに発信するのではなく、これは絶対誰にも言えないような、自分だけの言葉をためていく、ということなんですよね。

自分にしかわからない言葉でもいいですし、何でもいいんです、自分の思っていることを、自

分の中だけで作っていくというのが、私は仲よくなる一歩だと思います。

自分だけの言葉は、誰にもジャッジされないじゃないですか、誰も知らないから。

自分しかジャッジしなくて、自分だけを慰めて、自分だけの背中を押す言葉があると、自分が自分の応援団長みたいなもので、とても強くなれます。アウェイであろうと、自分の言葉と対話できるから、すごく強くなると思います。

インタビューはこちらから視聴できます



筆者インタビュー

二年「『自分で考える時間』をもとう」

ジャーナリスト
池上彰



いけがみ・あきら
長野県出身。光村図書『国語』編集委員。著書に『伝える力』『考える力がつく本』などがある。

特設教材「情報社会を生きる」では、新聞やテレビニュース、ネットニュース、SNSなどの特徴を比較し、その特徴を生かして情報を集める活動を設定。

池上さんは『自分で考える時間』をもと「中」の中で、「編集」をキーワードに、情報を整理し吟味するための視点について、わかりやすい例を挙げながら解説しています。

——子どもの頃のメディアとの付き合い方

私が中学生の頃、当時得られる情報というのは新聞とテレビ、それからラジオでした。それぞれ、どんなニュースがあるんだろう、どんな情報があるんだろうというのを、そのまま素直

に受け止めてましたね。

高校生の頃、新聞によって、同じニュースでも全く扱い方が違ってたり、内容が全然違っていたりして、「あれ？新聞社によって、ずいぶん情報が違うんだ」と、ちょっとびっくりして、「あ、そうか。それぞれが人間が取材して書いてるんだから、それは違うよな。それを、ただそのまま受け取ったらいけないんだな」というように疑問をもつようになりました。

——中学生へのアドバイス

インターネット上では、実にさまざまな個人が情報を発信しています。それが単なる思い込みだったり、意図的に間違いを伝えているということもある。多くの人の目を通っていない結果、とんでもない間違いもあり得るんだということ前提に、情報に接したほうがいいですね。例えば、友達どうしでのいろんなうわさ話が

ありますよね。「こういう話があるんだよ」って聞いて、「えーっ」と思っぴっくりしたら、後で他の人から聞いたら違ってたということは、多分あると思うんですね。それはインターネットの世界でも同じことだと思うんですよ。そのときには、誰が発信してるのかというのをまず見ることが大事ですね。インターネットですと、実にさまざまな個人が発信しています。思い違いをすることはあるわけです。人間ですから。だから、情報を受け取るときには、「ちょっと待てよ」と、疑問をもつて、自分で考える時間をもつという姿勢が大事だと思います。

インタビューはこちらから視聴できます

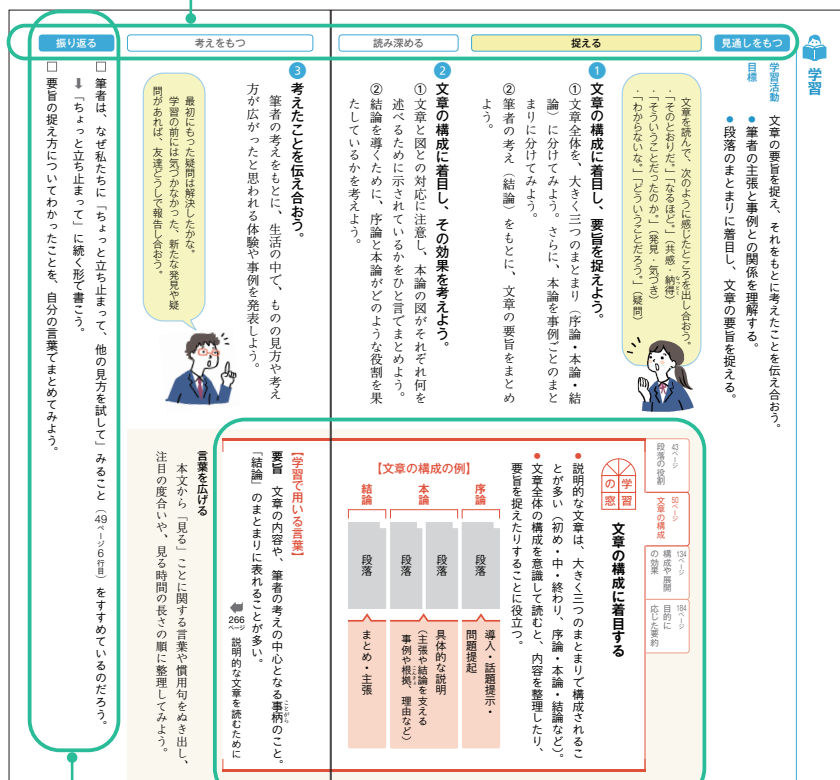




Point
1

学習過程がひと目でわかる

生徒の主体的な学びを促すために、学習過程を明示するとともに、重点を置く過程は強調して、身につける力の焦点化を図りました。個→集団→個で対話的に学びを深めます。



Point
2

「深い学び」へ導く
具体的な手立て

「学習の窓」では、汎用的な読みのポイントを、図解しながらわかりやすく解説。年間で学ぶ読みの力を一覧できます。「学習用語」が使用語彙になるよう、取り立てて示しています。

Point
3

自分の言葉で書く
振り返り

「何ができるようになったか」を自分の言葉で書く設問です。理解したことを言語化したり、他の場で活用（転移）したりすることで、資質・能力を確実に定着させます。

筆者インタビュー

三年「人間と人工知能と創造性」

三年生では、二つの論説を読み比べて、自分の考えをもつ教材を設定。「人間と人工知能の関わり」をテーマに、人工知能研究者の松原さんと将棋棋士の羽生善治さんが、意見を述べています。

松原さんは、コンピュータに小説を書かせる研究を通して、これからの時代を生きる人間にとって必要な力とは何かを訴えかけています。

人工知能の研究とは

人工知能の研究というのは、「知能」というものを知りたいということなんですよ。誰しも好奇心で「人間とは何か」「自分とは何か」を知りたいと思うんです。それを少しでも理解しようというのが人工知能の研究です。例えば

人工知能と創造性について

創造性は人間さえ発揮すればいいので、コンピュータは創造性をもたなくていいという立場は理解できます。しかし、コンピュータがもし創造性をもてば、世界が広がる可能性があります。僕自身、将棋とか囲碁のプログラムの研究を

私は人工知能に小説を書かせるという研究をしています。その研究を通して、作家、人間が小説を書くというのはどういうことなのか、という過程で小説というのは書かれているのかというのを明らかにしたいと思っています。もちろん小説家は自分で「僕はこういうふうにいる」という意識をもっています。だから、コンピュータに作らせたものと人間の作ったものとを比較することによって、小説を書くというのはどういうことか明らかにするのを目指しているんです。

人工知能研究者
松原 仁



まつばら・ひとし
東京都出身。東京大学大学院教授。著書に『AIに心は宿るのか』などがある。

ずっとしていますが、ご存じのように将棋や囲碁はコンピュータのほうが人間よりもう強いんですよ。それで今何が起きてるかというところ、コンピュータが人間のプロ棋士でも見つけられなかった創造的な手、新しい手を見つけているんです。そうするとプロ棋士が感動するわけですね。「こんな手があるのか」「われわれには思いつかなかった」と。

今、将棋界でも囲碁界でも、プロ棋士がコンピュータが見つけた手を発展させることがたくさんあります。そうすると、将棋とか囲碁の世界に新たな可能性が広がってきます。これが実は人間と人工知能のとてもいい関係だと思っ

インタビュー
はこちらから
視聴できます



読書としてのウェブページ

新版教科書では、新しい読書のカたちとしてウェブページを読む活動を提案しました。教科書に掲載された文章の続きや読み応えのあるコンテンツをウェブページで読むことができます。



広告などのバナーが全て削除しており、生徒が安心して利用できます。



ウェブサイトで続きを読むことができます。

読書教材一覧

1年 本の中の中学生 あと少し、もう少し 瀬尾まいこ 西の魔女が死んだ 梨木香歩 ブラインドの向こうに見える光 小林良介	考える人になろう 君たちはどう生きるか 吉野源三郎 たのしい制約 佐藤雅彦
2年 翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま サン＝テグジュペリ 内藤 濯・池澤夏樹 訳	研究の現場にようこそ 日本に野生のゾウやサイがいた頃 富田幸光 (研究者) 川端裕人 (取材) クモの糸でバイオリン 大崎茂芳
3年 「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 宮下奈都	本は世界への扉 エルサルバドルの少女 ヘスース 長倉洋海 紛争地の看護師 白川優子

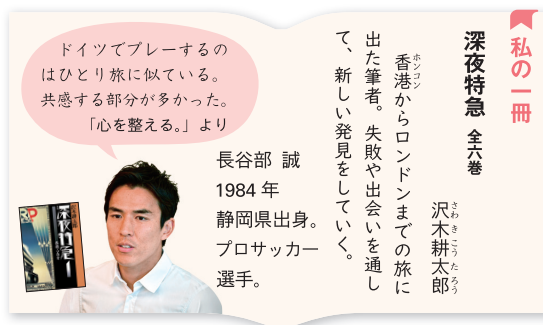
魅力的な読書活動

「本を紹介する」「感想を共有する」「読書生活をデザインする」の三つの系統で、取り組みやすく、意義のある読書活動を位置づけました。



「私の一冊」

サッカー選手や俳優など、各界で活躍する人たちのおすすめの一冊を掲載しました。



教科書から広がる新しい「読書」



2年

翻訳作品を読み比べよう

「星の王子さま」の二つの翻訳を読み比べるところから、世界の名作へといざないます。



教科書では、一部のみの紹介。続きは、本を手にとって読むように促しています。

1年

本の中の中学生

中学生が登場する本の一部を紹介し、同じテーマで読み広げていく楽しさを伝えます。



3年

「私の一冊」を探しにいこう

生徒が自分に合った本を見つけられるよう、ポップを見る、書評を読むなど、さまざまな本の探し方を示しました。



新しい「読書教材」の提案 読書がもっと身近になる仕掛けを

教科書で完結することなく、確実に「本」に手を伸ばしてもらえよう、同じテーマで複数の作品の一部を紹介するなど、教材の示し方を一新しました。読書がもっと身近になる、楽しい仕掛けが満載です。

紹介図書数

現 281冊

(内、表紙付 241)

新 412冊

(内、表紙付 277)



一年「話題や展開をとらえて話し合おう」



②「話す・聞く」の活動場面動画

スピーチや話し合いなどの活動場面を収録しました。話す速さや間の取り方、資料の提示のしかたなど紙面だけでは伝わりにくいノンバーバルな側面の参考となります。

③古典の朗読音声

アナウンサーや声優など、一流の朗読者による音声を収録しました。古典独特の響きやリズムを味わうことで、古典の世界が広がります。

④読みを助ける映像資料

生徒たちになじみの薄い時代背景や、言葉だけでは捉えにくい音声や動作などを資料映像として収録しました。内容をより深くつかむための補助として活用できます。



一年「矛盾 朗読音声画面



楚人^{そじん}に、盾と矛とを鬻^{ひき}ぐ者有り。これ^{これ}を譽^ほめて曰^{いは}はく、「吾^わが盾の堅きこと、能^よく陷^{とほ}すもの莫^なきなり。」と。



一年「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」



ピーツピ

※「QRコード」は(株)デンソーウェーブの登録商標です。

1年「野原はうたう」
作者の工藤直子さんのインタビュー動画



教科書に掲載されているQRコードを、スマートフォンやタブレット端末のカメラで読み込むと、動画や音声、写真などの資料を見ることができます。

QRコンテンツの
一覧はこちらから。



2年「君は『最後の晩餐』を知っているか」
筆者の布施英利さんのインタビュー動画



①作者・筆者のインタビュー動画

本誌P9～11に掲載した方をはじめ、各分野で活躍する人の生の声、表情に接することによって、教材への興味がますます深まります。

新しい学習方法の提案

QRコードで学びが立体的に

文字を読むだけでなく、動画や音声を視聴することによって、学びの世界はより広がり、深まります。60本の動画をはじめ、家庭学習や教室での授業など、さまざまな場面で活用できるコンテンツを用意し、QRコードによって簡単にアクセスできるようにしました。